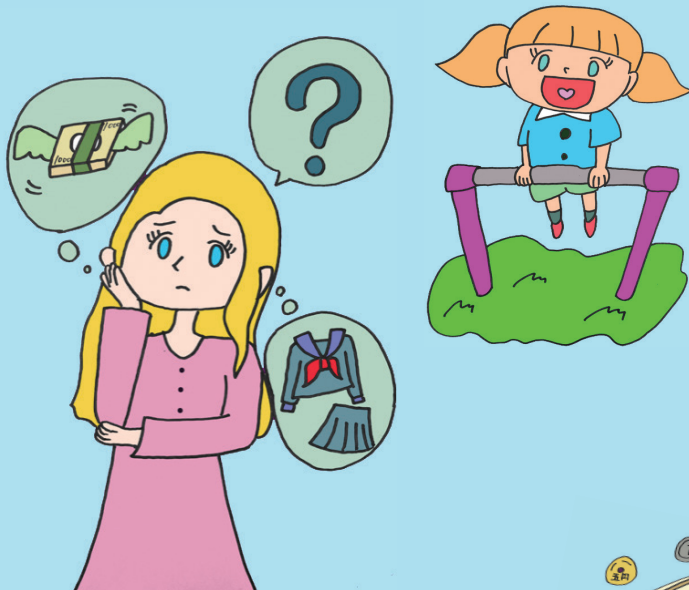


国際ファミリーのための

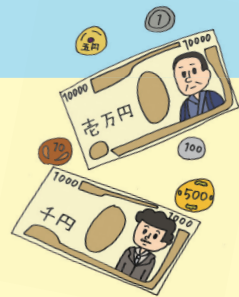
日本の小学校に入学する前に —教育資金編—



貯蓄のススメ ～子どもの将来のために～

日本では多くの子どもたちが義務教育修了後に進学します。高等学校や大学、専門学校に進学して勉強を続けるには多くのお金がかかります。一体どうしたらいいの？と心配になってしまうかもしれません。

教育費がどれくらいかかるのかを早いうちに知り、比較のお金のかからない小学生のうちから、毎月少しずつでも貯蓄を始めましょう。いろいろな制度を知り、上手に利用するのもひとつの方法です。日本人は人前であまりお金の話をしませんが、実は子どもの将来のためにコツコツ貯蓄をしている人が多いです。子どもの夢を叶えるために、早いうちから貯蓄をしましょう！！



～義務教育はタダ!?じゃない!!～

日本では公立の小学校や中学校に通う場合、「誰でも無償で学校に通うことができます」と言われていますが、だからといって、学校生活を送るために1円もお金がかからないというわけではありません。

● 小学校で必要なものの例

入学前に準備するもの(例)



値段は高いけど6年間使えます

ランドセル

体操服 体育館シューズ
上靴 赤白帽子 など

子どもの成長にあわせて
買い換えていく必要があります

定期的に支払います(例)

給食費 教材費(必要に応じて)
積み立て金(野外学習や修学旅行
など学年によって金額が変わります)
など

口座から引き落とされます

他にもこんな出費があります(例)

使い終わったら買い換えます

文房具 ノート など

絵の具 習字道具 リコーダー
鍵盤ハーモニカ 裁縫道具
コンパス 水着 など

学校から「買ってください」
と言われてから買います

このように小学校でも学校に通うためにお金はかかります。しかし、子どもの将来のためのお金は小学生のうちから貯めるのをお勧めします!!

なぜなら、中学・高等学校と学年が上がると もっとお金が必要になるからです！

1年間に必要な学習費の総額（※1）
（公立校に通った場合）

小学校 約32万円

大幅増！

中学校 約49万円

高等学校 約46万円

（参照：平成30年度 子供の学習費調査 文部科学省）

※1 学習費とは学校教育費・学校給食費・学校外活動費の合計です。

それならうちの子は進学しなくてもいいかも…と簡単に考えないでください。

日本では大学・短大への進学率は約**58%**、専門学校等も含むと約**83%**の人が高校卒業後も学生として勉強を続けます。（※2）一度就職やアルバイトを経験してから学生に戻るケースは少ないです。

（※2 参照：18歳人口及び高等教育機関への入学者・進学率等の推移 文部科学省）

子どもたちが勉強を続けるためには、たくさんのお金が必要ですが、このような援助制度もあります。

就学援助制度

小学校・中学校…就学援助制度

高等学校等…高等学校等就学支援金制度、奨学給付金制度、

高等学校等奨学金

大学・専門学校等…各種奨学金 など

就学援助制度▼



上記の制度はありますが、子どもの将来に
向けて**コツコツ**貯蓄をすることをお勧めします。

お金を貯めよう



必要なものの例

- ☐ 制服や学校指定の体操服
- ☐ 通学用自転車
- ☐ 電車・バス通学の費用
- ☐ 部活動で使用する用具
- ☐ 修学旅行等の積立金
- ☐ 高等学校での授業料や教科書代
- ☐ 進学のための学習塾代
- ☐ 入学試験を受けるための費用
（高校・大学進学時）
- ☐ 入学納付金（高校・大学入学時）
などなど



貯めたお金は
使わないで！





～ お金のイロイロ! ～

● おこづかい

おこづかいの大切な役割は、子どもにお金の価値を認識させて、お金との上手なつきあい方を学ばせることです。自分でお金を管理しながら、計画的に買いたいものを考えたり、我慢したり、さらに、家のお手伝いのごほうびとしてあげれば、「働いてお金を稼ぐ」という社会のしくみも学べます。

また、「日常生活」の中で、買い物などのお金にふれる機会をつくることで、自然と算数の勉強につながったり、日本語の習得につながったりします。

日本の小学生のおこづかいは、毎月決まった金額を与えられたり、必要な時に渡されたりすることが多いです。日ごろから、親子でおこづかいについて話し合い、家庭のルールを決めておくといいですね。

● 塾や習い事

日本では多くの小学生が、スイミングスクールや習字、そろばん、ピアノ、サッカー教室などの習い事や、語学教室、進学塾に通っているケースが多いです。また、高学年になるほど、学校外学習費が多くかかる家庭もあるようです。



● 放課後児童クラブ（学童保育）

両親が共働き等の場合、学校が終わったあとに子どもたちが安心・安全に過ごせる場所として利用できる施設があります。利用時間や利用料は、施設ごとに異なりますが、ほとんどが有料です。

自分の家の地域にはどのような施設があるのか、事前に調べておくといいですね。

愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 TEL: 0566-26-2219
e-mail: gendaigp@aecc.aichi-edu.ac.jp FAX: 0566-26-2566

愛知教育大学 リソースルーム



このリーフレットは日本語版のほか、ポルトガル語版、スペイン語版、
タガログ語版、中国語版、ベトナム語版、英語版があります。
イラスト協力: 古屋柚 森嶋純菜 山田優花